



釈迦の言葉 (読書の中より)

7月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2023年7月11日(火)

- (1) 釈迦は生きている人間がどうすれば悩み、苦しみから解放されるかを解き、死後の世界や「あの世」について語ったことはない。死後の世界について問われたとき、「毒の塗った矢が飛んできて身体に突き刺さったとする。その時この矢はどこから飛んできたのだろう、この毒の種類は何だろうか?などと考える前にまずやることがある。それは、すぐに矢を抜くことである」。これが有名な「毒矢のたとえ」、あの世があるか無いかを考えるのは時間のムダと言っている。
- (2) 自己を灯明とし、自己を拠り所として、他のものを拠り所とするなかれ
- (3) 僧は葬式のような儀式に関わってはいけない。修業に専念しなさい
- (4) 釈迦は生きている人間の苦しみからの解放を説いた。あの世を認めていない
- (5) あの世があるかないか、霊があるかないかを考えるのは時間のムダ
- (6) 大事なのはこの世の苦しみを解決することであり、そのために修業をしなさい。釈迦の教えは自助努力である
- (7) 宗教は生きている人間のためにある、人間は死んだらただの物質である
- (8) お葬式は本来仏教で行う儀式ではない
- (9) 全ての物事は本来空である。全ての物事は常に変化する
- (10) 目の前の物事の生・住・異・滅に心を迷わされてはいけない
- (11) この世のあらゆる物事のありようは、一切が手筈で、しかも大きな調和を保っている
- (12) 釈迦の教えは、念仏を称えれば救われるといったような、救いを求める宗教ではない
- (13) そうした変化の様子を見通すだけでなく、その善悪を知らねばならない
- (14) 生・住・異・滅と世の中のことは一刻も止まってはいない
- (15) 現在、宇宙はその始まり(137億年前)の間近まで見ることができる。ハッブル宇宙望遠鏡で、131億年前、宇宙が生まれて間もない姿を観測することができる。釈迦は独自の方法でそれを見ていたかもしれない
- (16) 人間も、すべての動物も植物も、いつかは、必ず滅びる
- (17) 仏教は神について説かなかったほぼ唯一の宗教である
- (18) 釈迦とその教団はカーストを認めなかった
- (19) 釈迦一神はいない
- (20) 大乘仏教一如来という神の概念、薬師如来、大日如来

- (21) 何かに頼って生きることを否定する
- (22) 「ないものねだり」をせずに、「いま・ここ」をしっかりと生きる
- (23) 釈迦は差別を徹底的に否定した
- (24) 釈迦はアートマン(魂、自我)を否定することで、輪廻転生がないことを説いた
- (25) 共命鳥の失敗
- (26) 感情のゴミを捨てる、根本からごっそり捨てる
- (27) 抽象度を上げる、大きく物を見る
- (28) 「嬉しい」、「楽しい」、「幸せ」という気分ではなく、ゴールを目指す
- (29) 科学と対応させて考えることのできるのは釈迦時代の仏教である
- (30) 2500 年前にインドで興った仏教は様々な形をとって世界へ流入していった
- (31) 私の指先(仏教典)を見るな、指の指しているところを見なさい
- (32) 「苦」とは人間の一時的な細胞レベルの欲求で、それは「煩惱」である
- (33) 相関を見抜く英知
- (34) 下を向けば暗くなり、上を見れば明るくなる
- (35) ネパールのルンビニは釈迦が生まれたところだから税金は 6 分の 1 にする(アショーカ王)
- (36) 釈迦の仏教(2500 年前)、部派仏教(2300 年前)、大乘仏教(2000 年前)

参考：(法華経、無量義経)、
(お釈迦さまの脳科学 苦米地英人 アマゾン)、
(ブッダの言葉 中村元訳 岩波文庫)、
(生き方、ちょっと変えてみよう ひろさちや アマゾン)、
(科学するブッダ 佐々木閑 角川ソフィア文庫)